

## 採用施設一覧 (◎は基幹施設、○は連携施設)

◎都立駒込病院

○都立大塚病院

○都立墨東病院

○都立多摩総合医療センター

○(公財)東京都保健医療公社荏原病院

## 研修プログラムの特徴

### ● 都立駒込病院 (基幹施設)

がん・感染症センター都立駒込病院施設群東京医師アカデミー放射線科専門研修プログラム

プログラム責任者：放射線科 唐澤 克之      プログラム研修期間：3年

連携施設病院：大塚 / 墨東 / 多摩総合 / 小児総合 / 荏原

東京都がん検診センター

当プログラムはがん・感染症センター都立駒込病院(駒込)を基幹施設として、都立多摩総合医療センター(多摩総合)、都立大塚病院、都保健医療公社荏原病院、都立小児総合医療センター(小児総合)、都立墨東病院を連携施設、さらに都立がん検診センター(都がん)を協力施設とする放射線科専門医を養成するプログラムです。その特徴は、6病院で約3000床以上の病床を有し、豊富な指導医のもと放射線科関連の検査が数多く行なわれることで、救急から慢性疾患、そして癌の診断まで、単純写真からCT、MRI、血管造影そしてPET-CTやIVRも含めた十分な放射線診断の研修が受けられます。放射線治療に関しては、駒込と多摩総合にて豊富な指導医を始めとする充実したスタッフと治療装置の環境下、通常の放射線治療から先進的な高精度放射線治療に至るまで、幅広い疾患についての盛りだくさんの研修を行なう事が出来ます。また、大学病院の放射線科においても行なわれなくなりつつある消化管透視や超音波検査については、都がんにおいて十分な研修を行なうことが出来ます。以上のように、当プログラムはいずれの施設も都内に位置し、相互間の距離も隔たっていない好環境で、病院間の連携体制も良好で、なおかつ満遍なくバランスの取れた研修が可能です。放射線科専門医取得のために絶好のプログラムです。

### 研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	放射線治療						放射線診断					
	<small>診断または治療専攻の専攻医のモデルの一例です。3年間に診断12か月、治療6か月の研修を必須とし、その他は専攻医の希望に沿った研修が出来ます。</small>											
2年次	放射線治療						放射線診断(大塚病院)					
	<small>3年間の間に基幹施設である駒込病院にて12か月間の研修が必須となっています。</small>											
3年次	検診センター／小児総合		放射線診断または放射線治療									
	<small>研修後半に検診センター、小児総合医療センターでそれぞれ1か月の研修を必須としています。</small>											

### ● 都立大塚病院 (連携施設)

指導医責任者：診療放射線科 玉本 文彦

連携をしている基幹施設病院：駒込

当院は、総合病院としての基盤の上に最重点医療として、総合周産期母子医療・小児医療をかがげ、リウマチ・膠原病系難病診療、心身障害児・高齢者、がん医療などの幅広い分野を、開設当初から地域医療連携を念頭に推進しています。当科は日本医学放射線学会、日本核医学会からそれぞれ修練機関病院としての認定を受けており、原則3年で専門研修医を受け入れます。当院の診療実績は平成28年度にCT12255件、MRI7608件、血管造影22件、核医学925件、消化管造影検査151件、単純写真1834件、マンモグラフィ936件、非血管造影系IVR245件などで、報告書作成件数は約23000件です。専門医受験資格所得には十分な症例数を確保していますが、不足分は基幹施設病院や他の連携施設病院へのローテーション時に補填されます。当科は駒込病院を基幹施設病院とする放射線科専門医研修プ

プログラムに参加しており、任期3年の間に他施設を定期的にローテーションすることで、幅広い放射線科的知識、技術を体得し専門医試験、診断あるいは治療専門医資格の取得を目標としています。研修は原則、1対1のマンツーマン方式で、適宜当科で作成しているティーチングファイル等を用いてのディスカッションを追加します。任期中には、マンモグラフィ検診読影認定医取得に関する講義および実践に即した集中読影実習を全員に課しており、当科に所属して実習を経た専門研修医のマンモグラフィ検診読影認定医取得率は100%となっています。以下に、当院の専門研修医のローテーション例を掲げますので、参考としていただきたいと思います。

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
<b>研修コースモデル</b>	大塚病院						診断（駒込病院）					
	<small>新専門医制度では任期中に基幹施設病院を合計で1年間ローテーションすることが義務づけられているため駒込病院の研修が合計1年となります。</small>											
	大塚病院						治療（駒込病院）					
<small>新専門医制度では任期中に基幹施設病院を合計で1年間ローテーションすることが義務づけられているため駒込病院の研修が合計1年となります。</small>												
3年次	大塚病院				小児	検診センター	大塚病院					
<small>小児＝小児総合医療センターでの小児科領域の画像診断、検診センター＝東京都がん検診センターで消化管造影などを研修（いずれも期間は調整可能）</small>												

### ● 都立墨東病院（連携施設）

指導医責任者：放射線科 松岡 勇二郎

連携をしている基幹施設病院：駒込

（東京医師アカデミー ホームページ 都立駒込病院 放射線科より 一部改変）

当プログラムはがん・感染症センター都立駒込病院を基幹施設として、都立多摩総合医療センター、都立大塚病院、公社荏原病院、都立小児総合医療センター、都立墨東病院を連携施設、さらに都立がん検診センターを協力施設とする、放射線科専門医を養成するプログラムです。その特徴は6病院で3000床以上の病床を有し、豊富な指導医のもと放射線科関連の検査が数多く行われ、救急から慢性疾患、そして癌の診断まで、単純写真からCT、MRI、血管造影そしてPET-CTやIVRも含めた十分な放射線診断の研修が受けられます。放射線治療に関しては、駒込と多摩総合にて、豊富な指導医を始めとする充実したスタッフと治療装置の環境下、通常の放射線治療から先進的な高精度放射線治療に至るまで、幅広い疾患についての盛りだくさんの研修を行う事が出来ます。また、大学病院の放射線科においても行なわれなくなりつつある消化管透視や超音波検査についても、都立がん検診センターにおいて十分な研修を行うことが出来ます。以上のように当プログラムは、いずれの施設も都内に位置し、相互間の距離も隔たっていない好環境で、なおかつ満遍なくバランスの取れた研修が可能であり、放射線科専門医取得のために絶好のプログラムであると考えられます。

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
<b>研修コースモデル</b>	墨東病院						診断（駒込病院）					
	<small>新専門医制度では任期中に基幹施設病院を合計で1年間ローテーションすることが義務づけられているため駒込病院の研修が合計1年となります。</small>											
	墨東病院						治療（駒込病院）					
<small>新専門医制度では任期中に基幹施設病院を合計で1年間ローテーションすることが義務づけられているため駒込病院の研修が合計1年となります。</small>												
3年次	墨東病院				小児	検診センター	墨東病院					
<small>小児＝小児総合医療センターでの小児科領域の画像診断、検診センター＝東京都がん検診センターで消化管造影などを研修（いずれも期間は調整可能）</small>												

● 都立多摩総合医療センター（連携施設）

指導医責任者：診療放射線科 喜多 みどり

連携をしている基幹施設病院：駒込

当プログラムはがん・感染症センター都立駒込病院を基幹施設として、都立多摩総合医療センター、都立大塚病院、公社荏原病院、都立小児総合医療センターを連携施設、さらに都立がん検診センターを関連施設とする放射線科専門医を養成するプログラムです。その特徴は、5病院で約3,000床の病床を有し、豊富な指導医のもと放射線科関連の検査が数多く行われ、救急から慢性疾患、そして癌の診断まで、単純写真からCT、MRI、血管造影そしてPET-CTやIVRも含めた十分な放射線診断の研修が受けられます。放射線治療に関しては駒込病院と多摩総合医療センターにて豊富な指導医を始めとする充実したスタッフと治療装置の環境下、通常の放射線治療から先進的な高精度放射線治療に至るまで、幅広い疾患についての盛りだくさんの研修を行うことができます。また大学病院の放射線科においても行われなくなりつつある消化管透視や超音波検査については都立がん検診センターにおいて十分な研修を行うことができます。以上のように当プログラムはいずれの施設も都内に位置し、相互間の距離も隔たっていない高環境で、なおかつ満遍なくバランスの取れた研修が可能であり、放射線科専門医取得のために絶好のプログラムであると考えられます。

研修コース  
モデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	多摩総合医療センター											
2年次	連携施設											
3年次	多摩総合医療センター											

● (公財) 東京都保健医療公社荏原病院（連携施設）

指導医責任者：放射線科 井田 正博

連携をしている基幹施設病院：駒込

放射線診断専門医の取得を目標とし、日本医学放射線学会専門医研修ガイドラインに準拠して研修を行います。General radiologist 育成を目的とし、さらに subspecialty を専攻して臨床研究、学会発表、論文作成を行います。診療においては読影のみならず、画像診断管理についても習得し画像診断を通じて日常診療、救急診療に積極的に介入します。核医学、放射線治療の基礎についても習得します。1年次：CT,MR、各種造影検査の原理と撮像プロトコールの特徴を理解し、基本的な所見の読み方、鑑別診断、さらに最終診断への考え方を学びます。血管造影、IVR 主手技の基本を習得する。院内各科および院外におけるカンファランスに参加し発表します。subspecialty と研究テーマを選択し、臨床研究、学会発表の方法を学び、実際に学会発表を行います。2年次は放射線腫瘍学、放射線治療学を研修します。2年次後半からは、より専門性の高い診断学、超音波医学、核医学、放射線腫瘍学を研修し、subspecialty も含めた専門的な分野を習得します。

研修コース  
モデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	荏原病院 1年次は荏原病院にて撮像法の原理や画像診断（読影）、造影検査手技等を研修する。											
2年次	治療（駒込病院）						診断（駒込病院） 2年次は基幹施設である駒込病院にて、前半は治療・後半は診断について研修する。					
3年次	大塚病院				小児		がん検診		荏原病院 3年次は荏原病院のほか、小児総合医療センターやがん検診センターでより専門性の高い研修を行う。			